

秋芽の被覆が秋てん茶の品質関連成分及び生育に及ぼす影響調査

近年、色沢付与等を目的とする食品加工用抹茶の需要拡大に伴い、京都府では露天栽培された秋芽を原料とする秋てん茶の生産量が年々増加しています。

一方で、緑茶表示基準が改定(2020年4月1日施行)され、覆いをせずに栽培された秋てん茶は抹茶原料として認められないこととなり、今後、秋てん茶を抹茶原料とするために、秋てん茶の被覆栽培が増加することが見込まれます。

しかし、秋芽の被覆による秋てん茶の品質関連成分、及びその後の樹勢や翌年の一番茶に及ぼす影響については知見がなく、秋芽の被覆が品質関連成分や被覆後の生育に及ぼす影響の解明及び秋てん茶における適切な被覆方法や被覆後の樹勢回復技術の開発が求められています。

そこで、秋芽の被覆が秋てん茶の品質に与える影響および被覆後の樹勢や新芽生育に及ぼす影響について調査を行っています。



直掛による秋芽の被覆



クロロフィル蛍光を測定して被覆の影響を調査